

[illegible][illegible]

5	1. 量水器	※計量法 検定合格品とする。 ・計メーター（※貸与品 ※買取り）（・直接式 ・遠隔式） ・子メーター（・貸与品 ※買取り）（・直接式 ・遠隔式）
	2. 量水器類	・水道事業者指定品（・貸与品 ※買取り） ・国土交通省型 ・その他
	3. 井類	・水道直結部分 JIS ※10K（ ） ・その他の部分 JIS ※5K ・10K
	4. 井類	・塩ビライニング鋼管及びポリ粉体鋼管の配管に取付ける錆鉄製の弁はライニング弁とし、青銅製弁は管端防錆手の規定に準じた管端コアを備えたものとする。 ・錆鉄製スレーナ－はライニングを施したものとする。 ・国土交通省型 図4による。
	5. 配管材料	一般配管 ・塩ビライニング鋼管（SGP-VA） ・塩ビライニング鋼管（SGP-VS） ・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）・錆鉄管（ 型 種） ・ステンレス鋼管（SUS）（・圧縮接合 ・溶接接合 ・協管接合） ・架橋ポリエチレン管またはポリブテン管（さや管工法）・金属強化ポリエチレン管
	6. 引込納付金等	※別途
	7. ポンプ基礎	・標準基礎 ・防振基礎
	8. 他の設備場所の適用	下記のものとは、空調調和設備の当該項目を適用する。 イ）防振基礎（ ）747円/㎡(30t/ハ) 防振吊り金物及び支持金物（ただし排水管のみ） ※標準図（・（a） ・（b） ※（c）スリークッション）による。 ・一般敷地（・300mm ・mm） ・構内車両通路（・600mm ・mm） ※用いる（図5による。） 塩ビライニング鋼管と給排水・銅合金製配管附属品等との接続
	9. 建物導入部配管	
	10. 管の埋設深さ	
	11. 器具接続用管端	防食管継手
6	1. 配管材料	・汚水管 ・硬質塩化ビニル管（VP） ・耐火二層管 ・排水用塩ビライニング鋼管 ・耐火性硬質ポリ塩化ビニル管（FS-VP） ・硬質ポリシリカ管（RF-VP）：ピット内 ・雑排水管 ・配管用炭素鋼管（白） ・硬質塩化ビニル管（VP） ・カラーVP ・耐火二層管 ・排水用塩ビライニング鋼管 ・耐熱硬質塩化ビニル管 ・耐火硬質塩化ビ管（FS-VP） ・硬質ポリシリカ管（RF-VP）：ピット内 ・屋外排水管・硬質塩化ビニル管（・VP ・VU）※呼び径125以上は原則としてVUとする。 ・小口径樹立上り管・リサイクル硬質塩化ビニル管（・※FS-VU） ・通気管・配管用炭素鋼管（白） ・硬質塩化ビニル管（VP） ・カラーVP ・耐火二層管 ・硬質ポリシリカ管（RF-VP）：ピット内
	2. 管接合	・鋼管（・ねじ込み式 ・W継手（ ） ・排水用塩ビライニング鋼管（・W継手（ ）
	3. 可燃材の区分処理	図1による。
	4. 井類	特記以外JIS 5Kとする。
	5. 床下排除口直下の曲管	排水鉄鋼管系統の床下排除口直下に取り付ける管は45°2回曲りとする。
	6. コンクリート掘ふた	図面詳細による。
	7. 小口径掘ふた	ミカダ（未舗装部） 鉄線（歩道部） 保護鉄線（車道部）（・T-8 ・T-14 ・T-25）
	8. 伸縮継手	ビニル製伸縮継手
	9. グリーストラップ	空気調和・衛生学会規格仕様SHASE-S 217（グリース阻集器）によるものとする。
	10. 差込ソケット（VV）	排水法以下のビニル製排水管には差込（VV）ソケットを使用すること。
	11. 漏水試験継手	図示による。
7	1. 管類	イ）、ステンレス鋼管（・圧縮接合 ・溶接接合） ・保溫付ステンレス鋼管 ・耐熱塩ビライニング鋼管 ・鋼管 ・保溫付被覆鋼管 ・被覆断熱鋼管 ・架橋ポリエチレン管またはポリブテン管（さや管工法） ・金属強化ポリエチレン管 ロ）鋼管使用の場合はM管とし、電気防錆継手を取付ける。 ※用いる（図5による。）
	2. 器具接続用管端	防食管継手
	3. 井類	JIS 5Kとする。ただし、特記部分はJIS 10Kとする。
	4. 排気筒及び煙突	ガス湯沸器用排気筒は、JIS S 3025によるSUS304（厚さ0.3mm以上）とする。 ・排気筒の断熱（※要（随への箇所のみ） ・不要） イ）断熱水槽の保温（・要 ・不要） ロ）コンクリート埋設部（・防水布希布 ・保温施工） ・断熱間 ・防滴式 ・風呂給湯器（オートタイプ）
	5. 保温	・ガス ・灯油 ・電気
	6. 湯沸器	
	7. 燃料	
	8. 消火ポンプの基礎	・標準基礎 ・防振基礎
	9. フート弁・呼水栓及びサクションカバー	・要 ・不要
	10. 屋内消火栓	※減圧弁付
	11. 保温	・屋内露出消火栓（・要 ※不要） ・屋外露出消火栓（※要 ・不要）
12. 管類	・配管用炭素鋼管（白）（屋内） ・外面被覆鋼管（・SGP-VS ・SGP-PS）	
13. 消防設備士	※要	
8	1. 種類	・都市ガス（ガス種 ※13A ・12A ） ・液化石油ガス
	2. 管類	一般配管 ・配管用炭素鋼管（白） ・ガス用ステンレス製フレキシブル管 ・硬質塩化ビニル被覆鋼管 ・ポリエチレン被覆鋼管 ピット内配管 ・硬質塩化ビニル被覆鋼管 ・ポリエチレン被覆鋼管 屋外埋設配管 ・ポリエチレン管JIS K 6774
	3. 都市ガス	イ）ガスメーター 継メーターはガス供給事業者より借用、子メーターは買取りとする。 ロ）ガスメーター（・買取り ・借用） ロ）集合装置（・別途工事 ※本工事）
	4. 液化石油ガス	ハ）転倒防止用の鎖（・別途工事 ※本工事） ニ）ボンベ置場のコンクリート基礎（※別途工事 ・本工事） 連動スイッチ（・要 ・不要） ・本工事 ・別途工事
	5. ガス湯沸器の付属品	※ガス漏れ警報器工事は、住宅工事においては原則として行わない。
	6. ガス漏れ警報器	液化石油ガス設備士による施工とする。 （※）日本エネルギーガス機器検査協会、検査合格品とする。
	7. 施工資格	※要 ・不要
	8. ガス栓	・標準図（・（a） ・（b） ※（c）スリークッション）による。
	9. 絶縁継手	
	10. 建物導入部配管	
	9	1. ダクトの種類
2. 厨房ダクトの板厚		厨房排気ダクト（矩形ダクトに限る）の板厚は、表1による
3. ダクトの工法・種類		イ）給気用ダクト ・アングル工法 ・コーナ－ボルト工法（・共振 ・スライドオン） ・スパイラルダクト ・耐火二層管工法 ・VP管工法 ロ）排気用ダクト ・アングル工法 ・コーナ－ボルト工法（・共振 ・スライドオン） ・スパイラルダクト ・耐火二層管工法 ・VP管工法 ※厨房排気は原則としてアングル工法とすること
4. ダクトの分岐方法		イ）給気用ダクト ※割込み方式 ・直付け方式 ロ）排気用ダクト ※割込み方式 ・直付け方式
5. 換気フード		※指定色仕上げ ・指定なし
6. 厨房排気フード		イ）排気フードの増強及び支持金物、接合材等は、亜鉛鉄板製風道の当該事項による。 ロ）材質 ※ステンレス製 ・亜鉛鉄板製
7. 多連管所の範囲		※厨房 ※浴室（シール有）
8. 他の設備項目の適用		下記のものとは、空調調和設備の当該項目を適用する。 イ）風量測定口 ロ）チャンパ－ ハ）吸出口及び吸込口の材質 ニ）排風ダンパ－ ホ）消音内貼り ヘ）防振つり金物 ・床板（・標準基礎 ・防振基礎） ・吊吊（標準図による。）
9. 送風機の基礎		

12  
排煙設備

1. ダクトの材質

2. 排煙口

・亜鉛鉄板製

・普通鋼板製

イ) 形状

・スリット形

・ハネ形

・ダンパー形

ロ) 開放装置

・手動

・手動及び遠隔操作可能なもの

12  
自動制御設備

1. 中央監視制御

2. 中央監視制御装置の構成・機能

3. 電器装置

・必要

・不要

別紙による。

・要(・本工事、別途電気工事)

・不要

① 温湿度調整目標値

(※冷・暖房期若しくは指定日に配合運転調整を行い、試運転成績表を提出すること)

13  
空調設備

空調設備

外 気			室 内							
			・ ( )			・ 学校 (一般系統)		・ 学校 (厨房)		
	温 度 (DB)	湿 度 (WB)	温 度 (RH)	温 度 (DB)	湿 度 (WB)	湿 度 (RH)	温 度 (DB)	湿 度 (RH)	温 度 (DB)	湿 度 (RH)
夏 季	34.0℃	27.5℃	57.1%	℃	℃	%	28.0℃	%	25.0℃	80%
冬 季	1.8℃	-0.7℃	59.2%	℃	℃	%	19.0℃	%	℃	%

② 電気工事の範囲

③ パッケージエアコン

※施工区分による。

○図面詳細による。

イ) 冷媒 ※HFC系 (R407C, R410A, R134a, R32等)

ロ) 冷媒管 (※断熱材被覆鋼管 (断熱厚さ: 液管10mm (液管の管径φ9.52mm以下は厚さ6mm)、ガス管20mm)

ハ) 冷媒管及びドレン管の区画処理 (・有 (※国土交通大臣認定工法) ・その他) ○無

ニ) ドレン管の材質 ・配管用炭素鋼鋼管 (白) ・カラーVP

・結露防止層付塩化ビニル管 ○硬質塩化ポリカイク管 (RF-VP)

ホ) 室外機の基礎 (○標準架台 ・防振架台)

ケ) ※2015年省エネ基準達成率に対する

4. 配管材料 (パナソニックを除く)

イ) 給水管 ・塩化ビニリング鋼管 (・SGP-VB ・SGP-VA)

ロ) 冷温水管 ・配管用炭素鋼鋼管 (白) ・耐熱塩化ビニリング鋼管

・一般配管用ステンレス鋼鋼管

ハ) 排水管 ・配管用炭素鋼鋼管 (白) ・硬質塩化ビニル管 (VP) ・カラーVP

・結露防止層付塩化ビニル管 ・硬質塩化ポリカイク管 (RF-VP)

ニ) 冷却水管 ※塩化ビニリング鋼管 (※SGP-VB ・ )

ホ) 高気圧及び油配管は配管用炭素鋼鋼管 (黒) とする

ト) 冷媒管 ・鋼管 ・断熱材被覆鋼管 (製造標準品)

チ) 断熱管の区画処理 (・有 (※国土交通大臣認定工法) ・その他) ○無

テ) 断熱管、安全管及び断熱水槽よりボイラへの給水管の配管材料は、水道用亜鉛メッキ鋼管とする。

※HFC系 (R407C, R410A, R134a, R32等) ・自然冷媒 (CO2, NH3)

JIS 5K とする。ただし特記部分はJIS 10K とする。

・ペローズ形 ・合成ゴム製 (・合成ゴム製 ・3山ペローズ形)

※長さは標準仕様書による。

・ペローズ形ステンレス製 ・合成ゴム製

5. 冷媒

6. 弁

7. 防振継手

8. フレックシブルパイプ

9. ダクト

10. 風量測定口

11. チャンパー等

12. 吹出口・吸込口の材質 (シャッター共)

13. 防煙ダンパー

14. 煙道

15. 保温

16. 消音内貼り

① 機器類の架台

② 機械室 (配管・風道のつり金物)

③ 温度計

④ 圧力計及び差圧計

⑤ 瞬間流量計

⑥ ファンコイルユニット用調節弁

⑦ 油サービスタンク

⑧ 地下貯油槽

⑨ 予備品

⑩ アワーメーター

⑪ 温度計

⑫ 湿度計

⑬ ばいじん測定孔

イ) 種類 (※低圧ダクト ・高圧ダクト)

ロ) 工法・種類 (・アングル工法 ・コーガポルト工法 (・共振 ・スライドオン) ・スパイラルダクト ・ステンレスダクト)

ハ) 分岐方法 (※別記方式 ・直付け方式)

標準仕様書によるほか、取付を指示された部分に取付ける。

イ) シーリングディフューザーには、下記の接続チャンパーを設ける。

a) ネット径が200φ以下 400×400×250H

b) ネット径が200φをこえるもの 500×500×300H

ロ) フリーズライン形吹出口には、下記の接続チャンパーを設ける。

a) シングル形 200φ (L+100) ×300H

b) ダブル形 250φ (L+100) ×300H

ハ) 外壁に面するガラリに直接取り付けけるチャンパー、ホッパーには排水弁を設ける。

イ) ユニバーサル形吹出口 ・銅板製 ※アルミ製

ロ) シーリングディフューザー ・銅板製 ※アルミ製

ハ) 吸込口 ・銅板製 ※アルミ製 (外気吸込口には防虫網付とする。)

下記のものは本仕様による。

イ) 操作方式 ・電気式 ・空気式

ロ) 復帰方式 ※遠隔式 (※電気式 ・空気式) ・手動式

ハ) 温度ヒューズ (・取り付ける ・取り付けない)

ニ) 表示用端子 (・設ける ・設けない)

銅板厚 (・4.5mm ※3.2mm)

下記のものは本仕様による。

イ) 建物内の空気抜き管の保温は、空気抜きまでとし、仕様は温水管の項による。

ロ) 空気調和機・ファンコイルユニット等の排水管の保温は、給排水衛生設備の排水管の項による。

ハ) 遠り風道の保温 (・要 ・不要) ニ) 断熱水槽の保温 (・要 ・不要)

ホ) 内貼りチャンパー等の保温 (・要 ・不要)

ケ) 隣へ伝わる風道の保温でフランジ部は保温材2枚重ねとする。

イ) 内貼りの材料及び施工法は、標準仕様書の当該事項による。

ロ) 施工箇所は、図示した風道並びにチャンパー側とする。

ハ) 内貼りチャンパー側の寸法表示は、外付け法とする。

イ) バッテリ形空気調和機 (○防振架台 ※本台 ※転倒防止処理)

ロ) ユニツト形空気調和機 (・標準架台 ・防振架台)

ハ) 遠風機 (・標準架台 ・防振架台) ニ) ポンプ (・標準架台 ・防振架台)

ホ) 冷凍機 (・標準架台 ・防振架台)

ケ) テラユニット (・標準架台 ・防振架台)

・防振つり金物 (・シングル ・ダブル) (・中央機械室 ・各層機械室)

※標準仕様書による。

※標準仕様書による。

※要 (※標準仕様書による) ・図示による) ・不要

・流量調節弁 ・定流量弁 (流量設定が可能なもの)

イ) 防油堤 (コンクリート製) ※別途工事 ・本工事

ロ) フロートスイッチの機能は、下記による。

・給油ポンプの起動、停止 ・減油警報 ・減油警報

ハ) 油面計 (・フロート式 ・ゲージ式)

イ) タンク室 ・設けない ・設ける (・別途工事 ・本工事)

ロ) 計量器 ・計量尺 ・直読式 (防水蓋スプリング付、プロテクター共) ・遠隔式

ハ) 土工事 ・オープンカット ・矢板 (・有 ・無) ・特殊基礎 (・有 ・無)

※ファンコイルユニット付属品 イ) 運転表示ランプ 台数の1/2以上

ロ) フィルター 各型番台数の1/2以上

※自動巻取り空気濾過用フィルター (各1台)

※ユニット形空気濾過器 個

※要 (指定機器) ・不要

※要 (指定機器) ・不要

・設ける

・設ける (煙道の直線部に直径φ100以上のフランジ付とする。)

・設けない

R 4-5

令和 年 月 日

工事名称

すどりの里空調設備改修工事

工事場所

福岡県東郷郡みやこ町豊津214番地1

設計者

1級建築士会館第 114158 号 建築設備士会 高尾 伸博

設計者氏名

高尾 伸博

事務所名

(有) 高尾設計事務所

及び所在地

福岡県横濱市大字塩埴町1507-1 TEL. 0930-22-2146

特記仕様書 (1)

図番 M-01 号

14 受入設備		※加圧給水ポンプ（住宅物件）の仕様については、加圧給水ポンプユニット仕様書（国土交通省仕様）による。										
15 浄化槽		※浄化槽仕様書による。										
26 営繕	給排水衛生設備 管類 保温仕様	施工箇所	保 温 種 別				区 別					
		屋 内 露 出	1. グラスウール 2. 断熱 3. 合成断熱材カバー	断水管	中水管	排水管	湯水管	給湯管	ガス管			
		機 械 室・倉 庫	1. グラスウール 2. 断熱 3. アルミガラスクロス化粧断熱	○	○	○	○	○	○			
		天井内・PS内・空腔壁中	1. アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温断熱	○	○	○	○	○	○			
		床 下・暗 渠 内	1. ポリスチレン 2. 粘着テープ フォーム保温断熱	○	○	○	○	○	○			
		床下・暗渠内・コウリト内	1. グラスウール 2. 断熱 3. ポリエチレンフィルム	○	○	○	○	○	○			
		屋外露出・多湿箇所	1. グラスウール 2. 断熱 3. ポリエチレンフィルム 4. ステンレス鋼板・ガルバリウム鋼板	○	○	○	○	○	○			
		屋外露出・多湿箇所	1. ポリスチレン 2. 粘着テープ フォーム保温断熱	○	○	○	○	○	○			
		黒 管 塗 装	1. 断止めペイント (2箇所)	○	○	○	○	○	○			
		白 管 塗 装	1. エンツァップ プライマー	○	○	○	○	○	○			
管類については○印を塗りつぶしたものを適用する	空調設備工事 （冷温水管）	施工箇所	保 温 種 別				区 別					
		屋 内 露 出	1. グラスウール 2. 断熱 3. ポリエチレンフィルム 4. 合成断熱材カバー	湯水管	排水管	冷水管	湯水管	給湯管	冷水管			
		屋 内 露 出	1. ポリスチレン 2. 粘着テープ フォーム保温断熱	○	○	○	○	○	○			
		屋 内 露 出	1. 建築断熱の新断熱材 2. 保溫化粧ケース	○	○	○	○	○	○			
		機 械 室・倉 庫	1. グラスウール 2. 断熱 3. ポリエチレンフィルム 4. アルミガラスクロス化粧断熱	○	○	○	○	○	○			
		機 械 室・倉 庫	1. ポリスチレン 2. 粘着テープ フォーム保温断熱	○	○	○	○	○	○			
		天井内・PS内・空腔壁中	1. アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温断熱	○	○	○	○	○	○			
		天井内・PS内・空腔壁中	1. グラスウール 2. 断熱 3. ポリエチレンフィルム 4. アルミガラスクロス化粧断熱	○	○	○	○	○	○			
		天井内・PS内・空腔壁中	1. ポリスチレン 2. 粘着テープ フォーム保温断熱	○	○	○	○	○	○			
		床下・暗渠内・コウリト内	1. グラスウール 2. 断熱 3. ポリエチレンフィルム 4. 断熱アルミガラスクロス	○	○	○	○	○	○			
一般風道	排煙風道	区 分	保 温 種 別				区 分					
		屋 内 露 出	屋 内 隠 ぺ い		屋 外 露 出		区 分		区 分			
		機 械 室・倉 庫・庫 房 庫 房・廊 下	1. 断 2. アルミガラスクロス化粧 グラスウール保温断熱		3. アルミガラスクロス粘着テープ 4. きつ着断熱（断）		区 分		区 分			
		矩 形 風 道	1. 断 2. アルミガラスクロス化粧 グラスウール保温断熱	3. アルミガラスクロス化粧テープ 4. 断熱		区 分		区 分				
		道 円 形 風 道（スパイラルダクト）	1. アルミガラスクロス化粧 グラスウール保温断熱	2. アルミガラスクロス化粧テープ 3. きつ着断熱（断）		区 分		区 分				
		排 煙 風 道	1. 断 2. アルミガラスクロス化粧 グラスウール保温断熱		3. アルミガラスクロス粘着テープ 4. きつ着断熱（断）		区 分		区 分			
		煙 道	1. 断 2. アルミガラスクロス化粧 グラスウール保温断熱		3. アルミガラスクロス粘着テープ 4. きつ着断熱（断）		区 分		区 分			
		※ 断熱材は断熱材及び断熱材の断熱材又は、断熱材の使用が困難な箇所は、断熱材を使用してもよい。										
		※ ストレーナー・弁の保温は、屋内外ともビスなどにより容易に着脱できる構造とすること。										
		※ 防火区画を貫通する管の保温は、その貫通する部分をロックウール保温材とする。										
※ 高気管、温水管の保温は、ポリエチレンフィルムを除く。												
※ スパイラルダクト（フランジ部を除く。）の保温は、グラスウール保温板32K使用してもよい。												
※ Oダクトが全てを經由する場合は保温すること。												
※ 全熱交換器のOA、EAダクトは保温工事を施すこと。												
※ ドレン管の保温は、排水管の項による。												
※ EAダクトは、外壁から1m迄保温する事。												
17 住宅	給排水衛生設備 管類 保温仕様 （管類については○印を塗りつぶしたものを適用する）	施工箇所	保 温 種 別				区 分					
		屋 内 露 出（住宅内）黒管	1. 断止めペイント (2箇所)	2. 断止めペイント (2箇所)	3. 断熱	4. 断熱	5. 断熱	6. 断熱	7. 断熱			
		屋 内 露 出（住宅内）白管	1. エンツァップ プライマー	2. 断熱	3. 断熱	4. 断熱	5. 断熱	6. 断熱	7. 断熱			
		屋 内 露 出（住宅外）	1. エンツァップ プライマー	2. 断熱	3. 断熱	4. 断熱	5. 断熱	6. 断熱	7. 断熱			
		機 械 室 内	1. グラスウール 2. 断熱 3. 断熱	4. 断熱	5. 断熱	6. 断熱	7. 断熱	8. 断熱				
		メーターボックス内黒管	1. 断止めペイント (2箇所)	2. 断止めペイント (2箇所)	3. 断熱	4. 断熱	5. 断熱	6. 断熱	7. 断熱			
		メーターボックス内白管	1. エンツァップ プライマー	2. 断熱	3. 断熱	4. 断熱	5. 断熱	6. 断熱	7. 断熱			
		メーターボックス内	1. グラスウール 2. 断熱 3. アルミガラスクロス	4. 断熱	5. 断熱	6. 断熱	7. 断熱	8. 断熱				
		床 下・暗 渠 内	1. ポリスチレン 2. 粘着テープ フォーム保温断熱	3. 断熱	4. 断熱	5. 断熱	6. 断熱	7. 断熱				
		床 下・暗 渠 内	1. 断止めペイント (断熱部)	2. 断止めペイント (断熱部)	3. 断熱	4. 断熱	5. 断熱	6. 断熱	7. 断熱			
管類	給排水衛生設備 管類 保温仕様 （管類については○印を塗りつぶしたものを適用											

<b>(18)</b> 建設副産物の処理について	<p>資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。</p> <p>現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所を設置し集積すること。</p> <p>また、「再生資源の利用の促進に関する法律」、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に使い、指定された方法により適正に処理を行うこと。</p> <p>工事に際しては、工事着手時に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」（共に添付書類を含む）を提出すること。</p>																			
	<p>指定副産物（原則として再資源化施設へ持込むもの）</p> <p>○がれき類 （コンクリート塊） （アスファルト塊）</p> <p>・木くず ・汚泥</p>	<p>その他の副産物</p> <p>○廃プラスチック</p> <p>・ガラス、陶磁器くず</p> <p>・廃石こうボード</p> <p>○金属くず</p> <p>○繊維くず</p>																		
	<p>特別管理産業廃棄物</p> <p>・廃石棉等</p> <p>１．除去処理</p> <p>アスベスト含有保温材等（煙突用耐火材は除く）の除去は可能なかぎり粉じん飛散抑制剤で十分に湿潤化した後、手ばらで行う事。手ばら以外の除去（グループバック方式による除去は除く）の場合は、「改修仕様」9.1.3および「改修指針」9.1.3による。</p> <p>２．汚染物処分</p> <p>（１）除去したアスベスト含有保温材等の処理方法は、「改修仕様」9.1.3（ｂ）（２）及び「改修指針」9.1.3（ｂ）（２）により、密封処理する。</p> <p>（２）施工区域域において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、揚重機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させない事。なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分等については、「改修仕様」9.1.3（ｃ）及び「改修指針」9.1.3（ｃ）による。</p>																			
	<p>・廃PCB等</p> <p>「電気事業法：電気関係報告規制」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・提出を行うとともに、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。</p> <p>※参考受入場所は現場説明書による</p>																			
	<p><b>建設副産物の処理内容</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">処 理 内 容</th> <th style="width: 40%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現 場 内 に お け る 分 別</td> <td></td> </tr> <tr> <td>現 場 内 分 別 保 管 場 所 の 設 置</td> <td></td> </tr> <tr> <td>現 場 内 分 別 保 管 場 所 ま で の 運 搬</td> <td></td> </tr> <tr> <td>分別保管場所からの積み込み・運搬・処分</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「建設副産物の処置計画図」の作成</td> <td>下請工事の場合は不要</td> </tr> <tr> <td>「建設副産物の処理結果報告書」の作成</td> <td>下請工事の場合は不要</td> </tr> <tr> <td>「再生資源利用計画書」の作成</td> <td>下請工事の場合は不要</td> </tr> <tr> <td>「再生資源利用実施書」の作成</td> <td>下請工事の場合は不要</td> </tr> </tbody> </table>		処 理 内 容	備 考	現 場 内 に お け る 分 別		現 場 内 分 別 保 管 場 所 の 設 置		現 場 内 分 別 保 管 場 所 ま で の 運 搬		分別保管場所からの積み込み・運搬・処分		「建設副産物の処置計画図」の作成	下請工事の場合は不要	「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要	「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要	「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要
処 理 内 容	備 考																			
現 場 内 に お け る 分 別																				
現 場 内 分 別 保 管 場 所 の 設 置																				
現 場 内 分 別 保 管 場 所 ま で の 運 搬																				
分別保管場所からの積み込み・運搬・処分																				
「建設副産物の処置計画図」の作成	下請工事の場合は不要																			
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要																			
「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要																			
「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要																			
<b>(19)</b> フロン処理について	<p>「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」に従い処理すること。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD     A[発注者(施設管理者)] -- "業務用冷凍空調機器の有無の確認委託確認書" --&gt; B[工事請負業者]     B -- "フロン類引渡回収・運搬、破壊費用支払委託確認書" --&gt; C[第1種フロン類充てん回収業者]     C -- "フロン類破壊・再生業者" --&gt; D["... フロン類回収・運搬"]     C -- "フロン類破壊・再生業者" --&gt; E["... フロン類破壊処理、一部再生利用"]     </pre> </div> <p>※ 工事請負業者は、第1種フロン類充てん回収業者にフロン回収処理を依頼し、回収後、取引証明書及び第1種フロン類充てん回収業者登録書のコピーの発行を受け、竣工図書に添付すること。</p> <p>※ 家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）に該当する機器（ルームエアコン等）については、適切に処理し、管理票（家電リサイクル券）を竣工図書に添付すること。</p>																			
<b>20</b> 中水道配管設備	<p>１．水 源 ・雨水 ・雑用水処理水 ・井水</p> <p>２．配 管 材 料 一般配管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩化ビナイニング鋼管（SGP-VA） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PA）</li> <li>・塩化ビナイニング鋼管（SGP-VB） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PB）</li> <li>・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）（屋内）、鉄鉄管（形 種）</li> <li>・ステンレス鋼管（SUS）（圧縮接合 ・溶接接合 ・拡管接合）</li> <li>ビット内配管 ・塩化ビナイニング鋼管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD）</li> <li>屋内地中配管 ・塩化ビナイニング鋼管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD）</li> <li>※ プルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。</li> <li>屋外地中配管 ・塩化ビナイニング鋼管（SGP-VD） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PD）</li> <li>・水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP） ・水道用硬質塩化ビニル管（VP）</li> <li>※ プルゴム系コーキングテープ又はゴムリングで完全に密封すること。</li> <li>・ポリエチレン管 1種（PE）（溶着接合 ・金属継手接合）</li> </ul>																			
	<p>３．接続部の防止対策</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">配 管 等</th> <th style="width: 80%;">※塗装できない箇所にテープ巻きを施すこと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>屋内隠蔽配管</td> <td>           １．保温前の様面に若草色の着色塗装を行う。            ２．保温後の上には若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。         </td> </tr> <tr> <td>屋内・屋外露出配管</td> <td>           １．保温前の様面に若草色の着色塗装を行う。            ２．保温後の要所には「処理水」と表示する。         </td> </tr> <tr> <td>地 中 埋 設 部</td> <td>           １．埋設前の様面に若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。         </td> </tr> <tr> <td>コンクリート内埋設部の配管メーター</td> <td>           ２．「処理水」の文字入り埋設標識テープ（黄色）を布設する。（地 中 埋 設 部）            １．メーター本体に若草色の着色塗装を行うこと。            ２．メーターボックス蓋は「処理水」入りを使用すること。         </td> </tr> <tr> <td>バルブ等</td> <td>           １．バルブハンドルには若草色の着色塗装を行うこと。            ２．バルブ等で誤操作する恐れのある箇所には、標示板等を取り付け処理水の等であることが識別できるようにする。            ３．地中埋設バルブの検査は「処理水」入りを使用すること。         </td> </tr> </tbody> </table> <p>注）若草色とは黄緑色をいう。        処理水用の若草色表示テープ、黄色の埋設標識テープは福岡市管工事組合に常備。        井戸水を雑用水として使用する場合は、上表において「若草色を紫色に」、「処理水を雑用水」と読みかえる。</p>		配 管 等	※塗装できない箇所にテープ巻きを施すこと	屋内隠蔽配管	１．保温前の様面に若草色の着色塗装を行う。 ２．保温後の上には若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。	屋内・屋外露出配管	１．保温前の様面に若草色の着色塗装を行う。 ２．保温後の要所には「処理水」と表示する。	地 中 埋 設 部	１．埋設前の様面に若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。	コンクリート内埋設部の配管メーター	２．「処理水」の文字入り埋設標識テープ（黄色）を布設する。（地 中 埋 設 部） １．メーター本体に若草色の着色塗装を行うこと。 ２．メーターボックス蓋は「処理水」入りを使用すること。	バルブ等	１．バルブハンドルには若草色の着色塗装を行うこと。 ２．バルブ等で誤操作する恐れのある箇所には、標示板等を取り付け処理水の等であることが識別できるようにする。 ３．地中埋設バルブの検査は「処理水」入りを使用すること。						
配 管 等	※塗装できない箇所にテープ巻きを施すこと																			
屋内隠蔽配管	１．保温前の様面に若草色の着色塗装を行う。 ２．保温後の上には若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。																			
屋内・屋外露出配管	１．保温前の様面に若草色の着色塗装を行う。 ２．保温後の要所には「処理水」と表示する。																			
地 中 埋 設 部	１．埋設前の様面に若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。																			
コンクリート内埋設部の配管メーター	２．「処理水」の文字入り埋設標識テープ（黄色）を布設する。（地 中 埋 設 部） １．メーター本体に若草色の着色塗装を行うこと。 ２．メーターボックス蓋は「処理水」入りを使用すること。																			
バルブ等	１．バルブハンドルには若草色の着色塗装を行うこと。 ２．バルブ等で誤操作する恐れのある箇所には、標示板等を取り付け処理水の等であることが識別できるようにする。 ３．地中埋設バルブの検査は「処理水」入りを使用すること。																			
<b>4．試 験</b>	<p>接続がないことを確認するための衛生器具等の取付完了後、系統毎に着色水を用いた漏水試験等を行う。</p>																			

図1 防火区画等貫通部措置

給水管、排水管及び通気管等が防火区画等を貫通する場合の措置は、建築基準法施行令第129条の2の4第1項第7号に規定されており、次のいずれかに該当すること。

- 防火区画等の貫通部分及び両側1m以内を不燃材料で造ること。(右参考図参照)  
※ 耐火二層管は不燃材料に該当せず、後述の3.に従う。
- 平成12年建設省告示第1422号に適合すること。(下表)  
(難燃材料又は硬質塩化ビニル管(VP)を用いる場合)

用途	覆いの有無	肉厚	給水管等の外径		
			防火構造	30分耐火構造	1時間耐火構造
給水管		5.5mm以上		90mm(75)	
		6.6mm以上		115mm(100)	90mm
		4.1mm以上		61mm(50)	
排水管及び排水管に付随する通気管	無し	5.5mm以上		90mm(75)	61mm
		6.6mm以上	115mm(100)	90mm	61mm
		5.5mm以上		90mm(75)	
	厚さ0.5mm以上の鉄板の覆い有り	6.6mm以上		115mm(100)	90mm
		7.0mm以上	141mm(125)	115mm	90mm

※表中の( )内は適合可能な硬質塩化ビニル管(JIS K 6741のVU管を除く)の呼び径寸法を示す。  
※呼称寸法未満の給水管等については、JISに適合した硬質塩化ビニル管であれば、表中の肉厚に満たなくても同一の性能を有しているものとして取り扱う。

- 国土交通大臣の認定を受けたものであること。

例1) 硬質塩化ビニル管(RF-VP)に防火区画貫通用テープを用いる場合(右参考図参照)

例2) 耐火二層管を認定条件に従って施工する場合  
(立管はすべて耐火二層管とし、横管は立管の分岐から1mまでを耐火二層管とし、その延長部分を硬質塩化ビニル管とした場合など)

図2 機器の吊り施工例

吊り長さが700mm以上、かつ重量10kg以上の設備機器については四隅を鉛直吊りボルトで支持し、隣り合う2本毎にX状斜材を締め具で堅固に取り付けて、天井との相関変位を抑制すること

対象 吊り長さL ≥ 700 mm  
機器重量W ≥ 10 kg

※ ただし、

- 天井吊形のファンコイル
- 天井吊形又はカセット形の空調機と機室内機
- 天井隠ぺい形全熱交換ユニット

の設置は、上記にかかわらず全て吊り用ボルトで行い、振れ止めを施したものであるとする

図3 配管埋設参考

埋設深さH	
1	300以上
2	600以上
3	以上

図4 弁脚

VC-1~VC-5

VC-P

記号	弁の呼び径	B	B	T	t'	t''	ふた
VC-P	25 以下	200φ	—	—	—	—	B 1
VC-1	40 以下	180x180	550	75	75	75	B 1
VC-2			850	100	100	100	
VC-3	50~80	300x300	700	100	100	120	MHA-P300
VC-4			900				
VC-5	100~200	450x450	1,200	120	120	120	MHA-P450

注(イ) 本表のB及びH寸法は、5K仕切弁を対象とする。  
(ロ) コンクリート部には、必要に応じ鉄筋を入れる。なおコンクリート部は工場製品でもよい。  
(ハ) 樹底部には、必要ある場合は、水抜管を設ける。

図5 異種金属接続部

異種金属接続部は、屋外埋設配管を除き電食防止のため、異種金属接続用絶縁継手を使用すること。使用箇所を下記に示す。

1. 砲金製バルブと塩ビライニング鋼管接続部（コア入りバルブは除く。）

2. 衛生器具（水栓類、便器、洗面器等）接続管と塩ビライニング鋼管接続部

3. マイクロエアバンド及びエアセパレーターと塩ビライニング鋼管接続部

絶縁エルボ又は絶縁オスメスソケットを使用すること。

4. 水道メーター（砲金）、伸縮弁（砲金）、伸縮メーターユニオン（砲金）と塩ビライニング鋼管接続部

5. 水抜きテスト弁と塩ビライニング鋼管接続部

6. 上記以外の異種金属接続部

表1 厨房排気ダクトの板厚

厨房排気ダクト（矩形ダクトに限る）の板厚については、以下による

〔単位：mm〕

ダクトの長辺	板厚	
	亜鉛鉄板	ステンレス鋼板
450以下	0.6以上	0.5以上
450を超え1,200以下	0.8以上	0.6以上
1,200を超え1,800以下	1.0以上	0.8以上
1,800を超えるもの	1.2以上	

※ 原則、アングルフランジ工法にてシールを施すこと

R4-5

令和 年 月 日

工事名称		すどりの重空調設備改修工事		特記仕様書（2）				
設計者 事務所名 及び所在地	工事場所	福岡県京都郡みやこ町豊津2174番地1		図番	M-02 号			
	設計者氏名	1級建築士登録第 114158 号 建築設備士第 高尾 伸博 号						
	事務所名	(有) 高尾設計事務所						
	及び所在地	福岡県行橋市大字道場寺1507-1 TEL 0930-22-2146						

空調設備 撤去 機器表

記 号	名 称	台 数	仕 様	電 源	電 圧 V	消費電力 Kw	設 置 場 所	備 考
AHU 1	ターミナル形空調機	2	床置形	3	200	3.7	ホール	コンクリート基礎200H
			冷房能力 顕熱 20kw ( 17,460kcal/h ) 全熱 22kw ( 19,280kcal/h )					( 残置 )
			暖房能力 16kw ( 13,760kcal/h ) 冷温水量 65リットル/min					
			送風量 5,400m³/h 機外静圧 20mmAq					
			1 冷房条件 吸込空気 DB=26 RH=50%					
			暖房条件 吸込空気 DB=22					
			冷水温度 7～12 温水入口温度 60					
			プレフィルター 中性能フィルター ( NBS65%以上 )					
			二方弁、ボディサーモ、スイッチ、その他付属品一式共					
			外形寸法：2,300W×650D×2,800H 質量：860Kg					

空調設備 新設 機器表										
室 名	記 号	名 称	型 式	参 考 消 費 電 力			台 数	参考能力 ( 定格 )		附 属 品 及 び 備 考
					V	k w ( 冷房/暖房 )		冷房能力 (kw)	暖房能力 (kw)	
ホール	ACP-1	空冷パッケージジリアコン	床置型・直吹 ( ペア )	3	2 0 0	1 0 . 6 ／ 9 . 6 2	2	2 5 . 0	2 8 . 0	保護ガード ( 正面・側面 )、防振パッド15t、冷媒配管 ( 渡り線含 ) 工事含む 他標準付属品一式共
ロビー	ACP-2	空冷パッケージジリアコン	天吊型・ペア	3	2 0 0	1 0 . 2 ／ 9 . 5 1	1	2 5 . 0	2 8 . 0	保護ガード ( 正面・側面 )、防振パッド15t、ワイヤレスリモコン・受光部 ( 裏ボックス・渡り線工事含 )、冷媒配管 ( 渡り線含 ) 工事含む 他標準付属品一式共
研修室A・B	ACP-3	空冷パッケージジリアコン	天吊型・同時ツイン	3	2 0 0	6 . 8 1 ／ 6 . 7 4	2	2 0 . 0	2 2 . 4	保護ガード ( 正面・側面 )、防振パッド15t、ワイヤレスリモコン・受光部 ( 裏ボックス・渡り線工事含 )、冷媒配管 ( 渡り線含 ) 工事含む 他標準付属品一式共
調理室	ACP-4	空冷パッケージジリアコン	天吊型・ペア	3	2 0 0	4 . 3 2 ／ 4 . 2 7	2	1 2 . 5	1 4 . 0	保護ガード ( 正面・側面 )、防振パッド15t、ワイヤレスリモコン・受光部 ( 裏ボックス・渡り線工事含 )、冷媒配管 ( 渡り線含 ) 工事含む 他標準付属品一式共
脱衣室 (1)	ACP-5	空冷パッケージジリアコン	天吊型・ペア	3	2 0 0	1 . 6 8 ／ 1 . 6 9	1	5 . 6	6 . 3	保護ガード ( 正面・側面 )、防振パッド15t、ワイヤレスリモコン・受光部 ( 裏ボックス・渡り線工事含 )、冷媒配管 ( 渡り線含 ) 工事含む 他標準付属品一式共
脱衣室 (2)	ACP-6	空冷パッケージジリアコン	天吊型・ペア	3	2 0 0	1 . 6 8 ／ 1 . 6 9	1	5 . 6	6 . 3	保護ガード ( 正面・側面 )、防振パッド15t、ワイヤレスリモコン・受光部 ( 裏ボックス・渡り線工事含 )、冷媒配管 ( 渡り線含 ) 工事含む 他標準付属品一式共
休憩室 (2)	ACP-7	空冷パッケージジリアコン	壁掛型・ペア	3	2 0 0	1 . 5 5 ／ 1 . 5 1	1	4 . 5	5 . 0	保護ガード ( 正面・側面 )、防振パッド15t、ワイヤレスリモコン ( 受光部本体組込 )、冷媒配管 ( 渡り線含 ) 工事含む 他標準付属品一式共
検診室 検査室	ACP-8	空冷パッケージジリアコン	壁掛型・ペア	3	2 0 0	1 . 1 0 ／ 1 . 3 8	2	4 . 0	4 . 5	保護ガード ( 正面・側面 )、防振パッド15t、ワイヤレスリモコン ( 受光部本体組込 )、冷媒配管 ( 渡り線含 ) 工事含む 他標準付属品一式共
健康相談室	ACP-9	空冷パッケージジリアコン	壁掛型・ペア	3	2 0 0	1 . 5 5 ／ 1 . 5 2	1	5 . 0	5 . 6	保護ガード ( 正面・側面 )、防振パッド15t、ワイヤレスリモコン ( 受光部本体組込 )、冷媒配管 ( 渡り線含 ) 工事含む 他標準付属品一式共

- 注 ) 1 . 電 気 容 量 は 参 考 値 と す る 。
- 2 . 屋 内 機 は 振 れ 止 め 施 工 の 事 。
- 3 . グ リ ー ン 購 入 法 適 合 品 と す る 。
- 4 . 高 効 率 型 機 種 ( 2 0 1 5 年 省 エ ネ 基 準 ) と す る 。
- 5 . 空 調 屋 内 機 の 吊 り ボ ル ト 受 金 物 は 、 現 地 確 認 の 上  
吊 り ボ ル ト 受 け 鋼 材 を 取 り 付 け る 。  
( 監 督 員 の 承 諾 を 得 る こ と )

コンクリート基礎  
寸法表及び詳細図

< 室 外 機 用 >

1 天端は金ゴテ仕上げとする。

2 コンクリート基礎寸法は標準的な範囲を示すものとする。

3 コンクリート強度は、FC18,SL18とする。

D 1 0 @ 2 0 0 ( タ テ ・ ヨ コ )

捨 コンクリート

クラッシャーラン  
( t = 100 程度 )

A - TYPE

( 土 , イ タ - ロ ッ キ ン ぐ また は ア ス フ ェ ル ト の 場 合 )

GL

50

150

100

a

100

200

50

D 1 0 @ 2 0 0 ( タ テ ・ ヨ コ )

B - TYPE

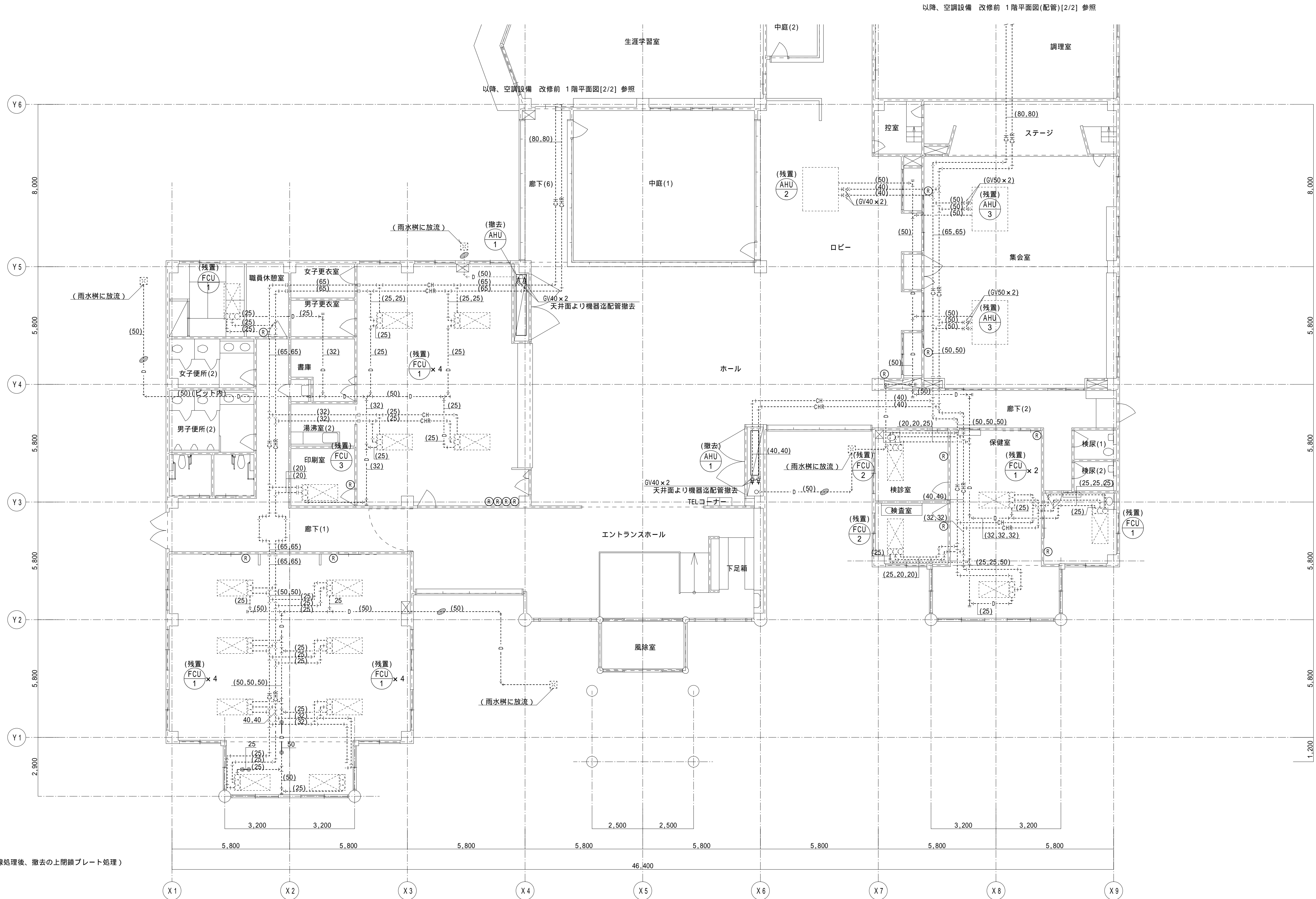
( コンクリート土間の場合 )

GL

200

a

	工事名称	すどりの里空調設備改修工事	事務所登録第 ( 1 - 2 0 0 2 0 ) 号 ( 有 ) 高尾設計事務所  1 級 建 築 士 大 臣 登 録 1 1 4 1 5 8 号 高 尾 伸 博 福 岡 県 行 橋 市 大 字 道 場 寺 1 5 0 7 - 1 0 9 3 0 - 2 2 - 2 1 4 6	承認		設計	
	図面名称	空調設備 撤去・新設 機器表		図 面 N o		M-03	



	工事名称	すどりの里空調設備改修工事	事務所登録第(1-20020)号 (有)高尾設計事務所	承認		設計	
	図面名称	空調設備 改修前 1階平面図[1/2]	1級建築士大臣登録114158号 福岡県行橋市大字道場寺1507-1	高尾 伸博	図面 No	M-04	
			0930-22-2146				

- 凡 例
- 天井解体復旧範囲
- 空調用個別リモコン（離線処理後、撤去の上閉鎖プレート処理）
- 配管切断箇所を示す

注記1) 図中 実線の機器及び配管は撤去を示し、破線及び（ ）書きは、既設のままとする。

2) 改修後使用しない配管切断箇所の配管断面は、キャップ止処理を行うこと。

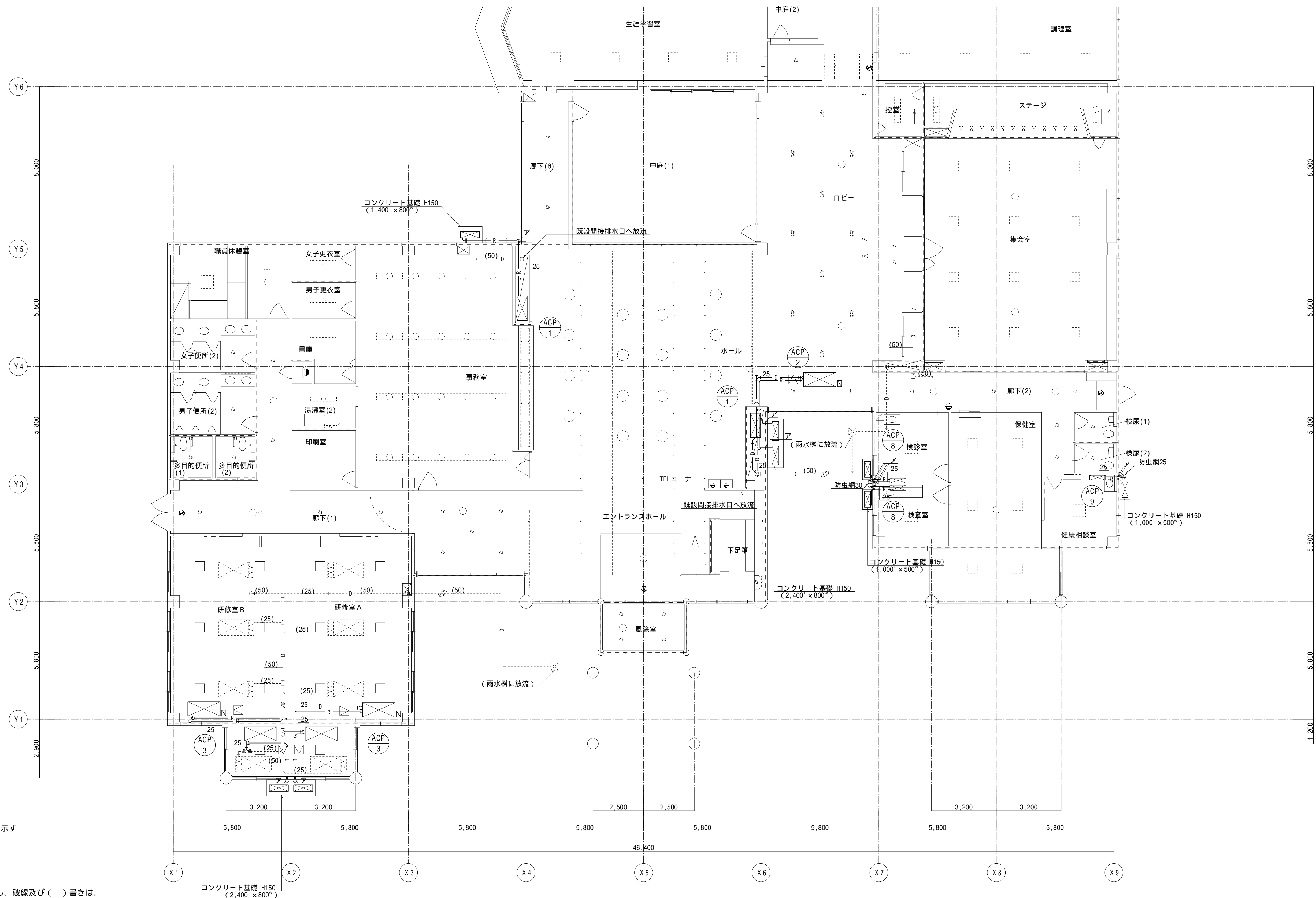


空調設備 改修前 1階平面図[2/2] S=1/100

以降、空調設備 改修前 1階平面図[1/2] 参照

	工事名称	すどりの里空調設備改修工事	事務所登録第（1-20020）号 （有）高尾設計事務所	承認		設計	
	図面名称	空調設備 改修前 1階平面図[2/2]	1級建築士大臣登録114158号 福岡県行橋市大字道場寺1507-1	高尾 伸博	図面 No	M-05	
			0930-22-2146				





- 凡例
- 天井解体復旧範囲
  - 配管接続箇所を示す
  - ダイヤモンドカッター壁貫通箇所を示す
  - 天井点検口
  - ワイヤレスリモコン受光部ユニット

注記1) 図中 実線の機器及び配管は新設を示し、破線及び( ) 書きは、既設を示す。

空調設備 改修後 1 階平面図[1/2] S=1/100

	工事名称	すどりの里空調設備改修工事	事務所登録第(1-20020)号 (有)高尾設計事務所 1級建築士大臣登録114158号 福岡県行橋市大字道場寺1507-1	承認		設計	
	図面名称	空調設備 改修後 1 階平面図[1/2]		図面 No			M-06

☐ : ワイヤレスリモコン受光部ユニット（裏ボックス：電気工事）

空調設備 改修後 1 階平面図[2/2] S=1/100

	工事名称	すどりの里空調設備改修工事	事務所登録第(1-20020)号 (有)高尾設計事務所	承認		設計	
				図面名称	空調設備 改修後 1階平面図[2/2]	1級建築士大臣登録114158号 福岡県行橋市大字道場寺1507-1	高尾 伸博 0930-22-2146